



奈良大宮ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

- 創立：昭和54年1月23日
- 例会：毎週火曜日17:30
- 事務所：奈良市大宮町6丁目3-7 中室ビル3F
電話 0742-33-8583/FAX 0742-33-8600
- 例会場：奈良市高畑町1096番地
奈良ホテル本館 電話0742-26-3300(代)
- 会長：中村信清 ■副会長：多田実 幹事：高野治

発行日 / 2016年3月8日
2015-2016/30

Vol.37

No. 1776

hp:http://naraomiya-rc.jp
E-mail: info@naraomiya-rc.jp

2015-16年度当クラブテーマ

『和と飛躍』



国際ロータリー第2650地区

ガバナー 中澤 忠嗣

「クラブに「個性」と「憧れ」を！」



四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

本日のお客様

- ・竹内 一順 様 (奈良RC)
- ・劉 瀟 さん (米山奨学生)

理事会報告

- ・情報集会の件
内容は今年度の反省と次年度に向けて。4月第2週あたりを予定。
- ・防犯協会加入の件
防犯協会森岡専務理事に卓話にお越しいただき、熱心に加入を依頼されたこと、当クラブに関係者、推薦者が多いことを考慮して、加入することが可決された。
- ・バーン・センスック寮支援の件
タイのアカ族の子ども達が暮らすバーン・センスック寮の水設備の支援、及び農機具の進呈を目的として58万円を寄付することが可決された。
- ・家族親睦例会(花見例会)の件
2016年4月10日(日)に吉野の竹林院群芳園に行くことが可決された。

委員会報告

青少年奉仕委員会：増井委員長

RYLAの受講生の推薦のお願いを、再度させていただきます。本年度5月20日から22日ですが、RYLAの受講生を募集しております。これはロータリーの中の青少年活動の大きな事業になっております。是非、20~30歳までの方でRYLAに参加いただける方の推薦をお願いいたします。本年度募集の締め切りがやってきております。是非これはという方がおられましたら、ぜひご紹介をお願いいたします。私がすぐ行きまして、ご説明の程させていただきます。いままで参加された方の話を聞きますと、よく勉強になったとよく聞いております。是非皆様20~30歳までの健全な男性・女性、紹介の程、よろしくをお願いいたします。

例会プログラム

第31回3月8日

通算1776回

1. 開会の点鐘
2. ソング「我らの生業」
3. お客様の紹介
4. 会務報告
5. 卓話
株式会社玉初堂
代表取締役 中造和夫 様
6. 閉会の点鐘

例会状況報告

第30回 3月1日

通算1775回

◎会員総数	73名
◎出席義務者	46名
◎出席規定免除者(a)	0名
◎出席規定免除者(b)	27名
◎本日出席	56名
◎本日欠席	5名
◎本日出席率	91.80%

第28回 2月16日

通算1773回の修正

◎欠席者	11名
◎免除者の欠席者	9名
◎欠席者の補填者	9名
◎免除者の補填者	3名
◎出席率	97.01%

雑誌・広報委員会：森山委員長

「ロータリーの友」の紹介をさせていただきます。ロータリー希望の風奨学金の記事が3ページ（横組P.12-15）にわたって紹介されております。この件に関しては北河原前ガバナーもお名前が載っておりますので、ぜひ一読していただければと思います。私ども奈良大宮RCの記事ではございませんが、2650地区の奈良クラブの（方の）記事も載っております。（横組）P.30です。これも一読頂ければ、と思います。

幹事報告

・東大寺総合文化センターにて3月6日（日）に「お水取りの全貌」が上映されます。先着300名入場は無料、開場は12:30、上映は13:00～14:30 本配布したチラシをご覧くださいらわかりますように、非常に迫力のある映像が楽しめるのではないかと思います。是非ご参加いただければと思います。

・先日来、国際奉仕委員長からご案内いただいております国際大会の件、今のところお申込みがございません。参加ご希望の方がいらっしゃれば、私の方にご連絡ください。よろしく願いいたします。

<米山奨学生修了のご挨拶>



カウンセラー・水野会員よりご挨拶

本年度カウンセラーをさせていただきました水野でございます。昨年の5月から劉さんをお預かりしまして、3月に無事大学院を卒業されることになりました。

本来であれば第三例会に参加させていただいていたのですが、学校の行事と都合がつかず、本日参加をさせていただくことになりました。本来であれば地区の修了式が3月12日にありますので、それ（修了証）を受け取った後にクラブに参加させて頂けたらと思っていたのですが、出来なくて大変申し訳ございません。例会ごとにみなさんにお声がけ頂いたりお誘い頂いたり、本人も気持ちよく行事や例会に参加させて頂くことができましたのは、みなさんのお陰だと思っております。一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

劉瀟さんよりご挨拶

今年度お世話になりました米山奨学生の劉瀟です。本当に一年間、まずはありがとうございました。最初にこちらに来させていただいた時はこんなに皆様と毎月のようにお話ししたりできるとは思っていなくて、この一年間いろんな皆様からのお話から自分としてもいろんなことを深く考えることができた一年になれたな、というふうに思います。それが学業にも生かせることができたのも、本当に皆様のお陰だと思っております。本来なら第三例会に参加したかったんですが、こんな早い段階になってしまって、本当に申し訳ないという思いでいっぱいです。今後とも、就職しますので、皆様に教えて頂いた教を胸に頑張っていきたいな、と思っておりますし、また機会があれば是非お会い出来たら良いなと思っております。本当に一年間お世話になりました。ありがとうございました。



カウンセラー・水野会員より

それから皆さんのところにお配りしてもらったのは、劉さんからのお気持ちということで、わざわざ京都まで行って買ってきて頂いたので、ご賞味頂ければ、と思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

米山奨学金支給

米山奨学生：劉 瀟 さん
学 校：奈良先端技術大学院大学



RI第2650地区(ガバナーエレクト)より委嘱状

2016～2017年度 IM第4組
・ゼネラルリーダー 北河原 公敬 君



卓話

合同会社EditZ（エディッツ）代表 松原雄一 様
ふたり出版社が奈良の新雑誌を出す理由



■はじめに

奈良の編集プロダクション、エディッツの松原と申します。
昨年9月に、『ならめがね』という奈良の新雑誌を創刊いたしました。本のサイズはA4よりちょっと幅広で、本文は100ページ。手に持ったときに「お、なかなかしっかりした本だな」という印象の雑誌です。

さて今日は、この『ならめがね』が誕生することになった経緯や、ちょっと客観的に見た奈良の魅力、そして編集者という実態のよくわからない仕事をちりり、お話したいと思います。題して、「ふたり出版社が奈良の新雑誌を出す理由」。

■EditZという社名について

この「EditZ」という社名ですが、「Edit」という単語には「編集する」という意味があります。そこに「Z」がついているわけですが、Zはアルファベット26文字の最後の1文字。つまり、“最後の1文字まで手を抜かずに編集する”プロダクションという意味を込めています。また、「Z」という文字の形が「2」という数字に似ていることから、“ふたりの編集者”という意味も含んでおります。

なので、EditZイコール、「最後の1文字まで手を抜かない、ふたりの編集プロダクション」と覚えていただけたら幸いです。

■EditZのふたりについて

そのふたりというのが、私・松原と、白崎です。雑誌『ならめがね』では、私が編集長、白崎が副編集長をしています。

私は福井県出身。これまで福井、京都、大阪、富山、そして奈良に住んできました。

白崎は東大阪出身。といっても幼少期に奈良に引っ越してきたので、ほぼ生粋の奈良県民といつてよいかと思います。

ふたりの経歴を簡単にいうと、

【松原】45歳男性。奈良在住15年。編集者歴20年。

【白崎】30代女性。奈良在住29年。編集者歴14年。

このふたり、性格や趣味嗜好が丸きり異なります。松原は細かいところが気になるタチ。かたや白崎は大ざっぱで、結果オーライ。ふたりの違いは、仕事の得意分野でも顕著です。松原は歴史ものや企業ものなど、カタめの仕事が得意。白崎は、グルメ・スイーツ・ファッションなど、女子ものが得意。「カタい」と「やわらかい」、そんなふたりの組み合わせだからこそ、クライアントからの多様なニーズにも対応してこられたのかなと思います。

■これまで作ってきたもの（制作実績）

2012年に、合同会社EditZを設立。以来、この3年間でどんなものを編集制作してきたか、その

一部を列記します。

【ホームページ】

『記紀万葉でたどる奈良』／2012年、古事記完成1300年を迎えたのを機に始まった、奈良県の記紀万葉プロジェクト。その初となるオフィシャルホームページ。

『ますます訪ねたくなる東大寺』／奈良を代表する古刹「東大寺」の境内やストーリーを、とことん紹介するホームページ。

『巡る奈良』／周遊型観光を提案する奈良県の観光総合ホームページ。

『うましうるわし奈良』／JR東海が年に2回行う「うましうるわし奈良キャンペーン」の観光誘客ホームページ。その中の一泊二日モデルコースを造成。

『ぐるたび 奈良』／グルメサイトで有名な「ぐるたび」が始めた、地元密着型の旅サイト。

【紙媒体】

『祈りの回廊』／奈良県観光局が発行する、奈良の神社仏閣を中心とした観光情報誌。

『知れば知るほど奈良はおもしろい』／奈良県ビジターズビューローが発行する、観光誘客キャンペーンの情報誌。

『なら記紀万葉名所図会 ～古事記編～』／奈良県観光局が古事記完成1300年を記念して発行した、初の記紀万葉オフィシャルガイドブック。朝日新聞の天声人語でも紹介され、当時話題に。

【東京・大阪の出版社から依頼を受け制作した紙媒体】

『奈良とっておきの上等なランチ』（メイツ出版）／奈良県内のちょっと贅沢なランチばかりを紹介した単行本。全100ページ。

『とっておきの聖地巡礼 高野山』（メイツ出版）／高野山開創1250年に合わせて発行された高野山ガイド本。全100ページ。

『奈良季行』（読売新聞 大阪本社）／正倉院展開催に合わせた奈良特集記事。全面まるごと担当。

冊子『さくら』（大和ハウス工業）／吉野山の桜を保全するため、大和ハウスが取り組むCSR活動「Daiwa Sakura Aid」。そのオフィシャルブック。

以上のように、奈良の観光・歴史・グルメにどっぷり浸かってきました。この3年間で「取材ネタ」、「取材ノウハウ」、「人脈ルート」、「企画力」が蓄積されました。

と同時に、見て聞いて感じてきた「奈良の良さ」を、公的な組織から発信するには限界があると感じるようになりました。ならば、公的な組織ではできないような、民間だからこそ作れる雑誌を自分たちで発行しよう。そして何より、地元出版社として、東京人が作り発信する「奈良」に負けないものを作りたい。

そういった思いから、奈良の新雑誌『ならめがね』を創刊しようと決めました。

■奈良の「強み」とは？

新しく雑誌を創刊するにあたって、奈良の「強み」とは何か？ 自己分析ならぬ、“地元”分析を繰り返しました。出た答えが、よそに絶対マネできない「圧倒的な古さ」です。

具体的に挙げると、

- ・神社仏閣 →とりわけ「お寺」と「仏像」。仏像は国宝の数日本一！
- ・世界遺産 →奈良県は世界遺産3つ。これも全国最多！
- ・ストーリー →単に古いのではなく、大人の探求心をくすぐる物語や、祈りの心がバックボーンにある。

例1) 「奈良の鹿」…鹿島神宮の神様が白鹿に乗って春日大社にやって来られたことから、鹿は神様の使いに。

例2) 「吉野の桜」…もとは花見のための桜ではなく、蔵王権現にお供えするために桜の苗木を人々が植えていったのが始まり。それが時代を超えて受け継がれ、“千本桜”や“一目千本”と謳われる今の景観となった

奈良には198もの国宝が身近にあって、世界遺産が3つもあります。ほかの県に住んでいる人間にとって、これはスゴイこと。（ちなみに私の出身県である福井県は、国宝6、世界遺産ゼロ）。しかし奈良県民は、なんとも思っていないことが多く…。実にもったいない。この奈良県民の冷めた「地元愛」をどうにかしたい。

そんな奈良県民に、奈良に目を向けてもらうためには、絡め手が必要です。考えたのは、奈良の人間が、奈良の人間のために作る「内向き」の雑誌ではなく、奈良の人間が、東京人や大阪人の嗜好を重視して作る「外向き」の雑誌です。いわば、東京目線の雑誌。

『ならめがね』を見た東京人が、奈良に憧れて、奈良に来る。それを見た奈良の人間が、「あ、なんか私たち、人気あるみたい」となるように仕向ける。つまり、東京・大阪からのフィードバックによって、奈良県民が、奈良の魅力を初めて知る。『ならめがね』は、そんなサイクルを目論んでいます。そのためには、東京・大阪に通用しなくてはなりません。

■都会生活者の目線で奈良を見ると

これまでたくさんの東京の出版社の方と仕事をしてきました。彼らと話していて気づいたのは、都会生活者には共通の「奈良観」があることです。

ざっくりまとめると、

- ・のんびり、ゆるやかな空気感
- ・ロマン（ミステリアスな何かと出会えそうな予感）
- ・懐かしさ
- ・不思議感（人と鹿が道路ですれ違う。電車の窓からでっかい古墳が見える…等）

です。

都会生活者はそれらを、「他所にはない奈良の魅力」として感じ、求めています。

■『ならめがね』とはこんな雑誌です

よって、『ならめがね』のコンセプトは「ゆるい、ゆったり、懐かしい」です。

毎号、4つのテーマで特集を組んでいます。

【第1特集／観光】…東京人を納得させるだけの、本物のポテンシャルを持った観光素材を選び、必ず“フック”のある企画に。歴史など、専門的で難しいものを難しいまま出すのではなく、一般の人でも「おもしろさのポイント」がわかるよう、“意識”を必ず行う。

【第2特集／フェチ】…どこかクスッと笑える、ディープでマニアックな「モノ」特集。

【第3特集／食】…和の心ばえが感じられるお店紹介。料理はもちろんのこと、お店のストーリーや店主の人柄にフォーカス。

【第4特集／地元愛】…大手チェーン店やコンビニにはない、昔ながらの個人商店や商店街に光をあてる特集。毎回、昭和な匂いのするお店ばかり掲載。

なお、『ならめがね』は、奈良県はもちろん、東京、大阪、名古屋、京都、神戸の書店にて販売いたしております。昨年9月、創刊号を出した折、啓林堂の奈良店では「月間売れ行きナンバーワン」になりました。また大手新聞社にも掲載いただき、反響も大きく、問い合わせが相次ぎました。

読者さんからの声として、『ならめがね』は、「センスのいい、オシャレ雑誌」、「写真がきれい」、「読み応えがある」、「ずっと手元に置いておきたい」、「読んで、奈良に行きたくなりました」…などなど。ちなみに30代～40代の女性に多く読まれています。

今のところは、奈良県民を振り向かせることができている、…と言えそうです（笑）

■取材先をジャッジするモノサシ

さて、ここからは、編集者の仕事についてお話したいと思います。編集者の業務は、企画立案、取材アポ、取材、撮影の立ち合い（ディレクション）、原稿確認、写真セレクト、デザイン指示、校正、印刷所との折衝など、日々実務（雑務？）の積み重ねです。ここでは「取材」場面に絞った内容でお話します。

編集者は「取材」のとき、どういったところを見て、その取材先のポテンシャルをジャッジするか。「ならめがね」で取材が多いのは、お寺とお店ですが、本日は個人でやっているお店を例にお話します。

【名刺チェック】

ご自分が編集者になったつもりで、赤膚焼のお店に取材に行くと想像してください。取材のとき、まずは名刺交換。さて、その方はどんな肩書であるかチェックします。作家か？職人か？

作家と書いている方は、ご自分をアーティストであり、表現者と規定しています。かたや、職人と書いている方は、先代もしくは師匠から教わった技を守り、継承していくことを本分とする匠。両者を分かちるのは、「自己表現」という一線かもしれないし、伝統を守るか創造するかの違いもあります。（どちらが良くて、どちらが悪いというのではありません）。さて、その名刺に、「作家」とも「職人」とも書いてなくて、ただ赤膚焼とだけ書いてあったら？

このときが、奥の深い取材ができるチャンスです。そんなとき、「名刺に肩書がありませんね。たいてい、作家もしくは職人といった肩書を書かれています…」と水を向けます。なぜなら、そこにその方の哲学や価値観を聞きだす糸口があるからです。ちなみにこの方の場合は、職人

であるとともに、ご自分の焼物を使って空間演出などもなさるプロデューサー。さらには、師匠から窯分けされた「窯元」でした。ゆえに職人という肩書一つでは当てはまらず、何も書いておられないということでした。なお、この方とはこれをご縁に今でも、公私を問わないお付き合いさせていただいております。もらった名刺に「？」を感じたら、すかさず質問。それを糸口にして、ネタを拾っていく。編集者の体質ですね（笑）

【トイレチェック】

今度は飲食店の場合。取材はアイドルタイム、つまりお客さんが来られない空き時間（14時～16時）に行くことが多いです。料理写真などを撮影しているとき、私はトイレを見させていただきます。というのも、飲食店の多くは、お客さんのためにトイレを綺麗にしておられるのですが、雑誌の取材のときは、お客さんのいないとき。それでもトイレを綺麗にしているところは、「飲食を扱うからにはいつも清潔を保っておくべき」と考えている、あるいは、「取材撮影をしているスタッフは未来のお客さん。今日は取材で来ているが、次はお客さんとして来るかもしれない。あるいはお客さんを連れてくるかもしれない。一般のお客さんと同じく、トイレを綺麗にしておくのは当然」と考えているか、そのどちらか。なお、トイレの状態に目が行き届いている＝トイレットペーパーの先を三角にたたんでいる、です。たとえ取材スタッフであっても、事前にトイレを綺麗にしている飲食店は、いつなんどきも配慮が行き届いていて、お客さんの満足度も高く、いいお店が多いです。

【料理チェック】

飲食店の場合、料理写真を撮影します。そしてその料理の味を記事に書くためには、ライターがその料理を食べる必要があります。

なお、フレンチのお店などの場合は、料理には味をつけず、見栄え重視、完全に撮影用と割り切ってらっしゃるところもあります。その場合は、撮影が終わったら、料理は下げられ、味を確かめることができません。

それ以外は、たいてい撮影が終わった後、ライターが料理を食べます。当然料理は冷めてしまっているのですが、それでも食わずに記事を書くよりもずっといいのは確かです。なお基本的に、どの店を取材するかを決める編集者は、事前に食べに行き味を確かめていますので、その店の味を知っています。しかしライターは、そのお店に行くのが初めてというケースもあります。熱心なライターになると、もし取材のとき料理を食べさせてもらえなかったら、後日自腹で食べに行き、自分の舌で味を確かめて記事にする人もいます。（『ならめがね』のライターがそうです）。

さて、お店の中には、撮影が終わった後、あらたに料理を作り直してくれる店主さんもいます。それも取材スタッフ全員のぶんを。「美味しい料理がタダで食べられて嬉しい」という気持ちもないことはないです。

しかし私がそこで感じるのは、店主さんのおもてなしの心、そして何より、「うちの料理の作りたての味を知ってもらいたい。それが本当の味だから」という料理に対する自信です。そういったお店は、かなり高い確率で、本当に美味しいお店であることが多いです。

さて、ここで問題です。撮影後、料理を100%作り直してくれる食べ物屋さんとは？

答えは蕎麦屋さん。これまで私が取材撮影に行った蕎麦屋さんは100%、作り直した蕎麦を出してくれました。それだけ、自身の腕に自信があるのと、美味しさへのあくなき追求、こだわりがあるからでしょう。

ちなみに、手打ちそばの撮影は、出してもらってから、1分以内で撮影を終えなくてはなりません。なぜなら、もたもた撮っていると、蕎麦の表面の水分がとび、出来立ての艶やかさが損なわれてしまうからです。当然、撮影が終わった蕎麦は、本来の美味しさはなく、それゆえ、店主は作り直したものを食べてほしいと願うのです。

■最後に

まだ創刊から半年。生まれたばかりの『ならめがね』ですが、微力ながら、奈良の観光振興に貢献できたらと考えております。

お近くの本屋さん立ち寄りの際は、『ならめがね』を手にとってくださいますと嬉しいです。さらに、そのままレジまで行ってくださったら、もっともっと嬉しいです（笑）

私の卓話はこれで終わりです。ご清聴ありがとうございました。



本日計 47,000円 累計 1,973,000円

中村信清 君	当天満宮の盆梅も満開となっております。是非みにきてください。
高野 治 君	松原先生、本日の卓話、宜しくお願いします。りゅうしょうさん、1年間ありがとうございました。
植村将史 君	松原様 本日の卓話ありがとうございます。楽しみに聞かせていただきます。
増井義久 君	武藤さん、箸尾さん 日曜日ありがとうございました。水野さん お世話になりました。
谷川千代則君	連続欠席すみません
武中洋勝 君	連続欠席のおわびに ニコニコ
宮西正伸 君	ニコニコ協力
水野憲治 君	ニコニコ協力
倉田智史 君	ニコニコ協力
門脇伸幸 君	ニコニコ協力
市田富久夫君	ニコニコ協力
山口尚紀 君	ニコニコ協力
河野里志 君	ニコニコ協力
野末勝宏 君	ニコニコ協力
奥田哲也 君	ニコニコ協力

例会変更のお知らせ

3 月

■生駒ロータリークラブ■

・3月30日（水）・・・職場見学・家族親睦移動例会のため、変更。

場所：京都「室町和久傳」
※ビジター受付：行いません。

■奈良西ロータリークラブ■

・3月17日（木）・・・定款第6条第1節(C)のため、休会。
※ビジター受付：行いません。

■大和郡山ロータリークラブ■

・3月21日（月・祝）・・・定款第6条第1節(C)のため、休会。
※ビジター受付：いたしません。

4 月

■大和郡山ロータリークラブ■

・4月4日（月）・・・定款第6条第1節(C)のため、休会。
※ビジター受付：いたしません。

次回の例会

2016年3月15日（火） 休会

2016年3月22日（火） クラブ討論会④
(社会奉仕委員会担当)